

# 実践記録 シリーズ

59

## 素人芝居大浦安について

～芝居づくりは地域づくりをめざして～

NPO法人素人芝居大浦安 理事 総務制作部長 鷲津 史也



### 1 素人芝居大浦安とは？

「素人芝居大浦安」は、東頸城郡の因島村・蒲川原村・匠塚町の住民有志によって制作される素人の演劇活動です。3町村公民館などからご支援をいただきながら3町村内で巡回公演を行うとともに、上越市、頸城村、新潟市、川口町、長野県飯山市、東京都葛飾区柴又などの他地域での特別公演も積極的に行い、地域の相互理解やPR、交流なども促進してまいりました。1991年（平成3）年にスタートし、今年ではや12周年を迎えます。



「芝居づくりは地域づくり」をモットーに、下は小学生から80過ぎのお年寄りまで、世代・町村・職場の垣根を越えた交流を重ねながら、脚本・演出から舞台美術・音響照明にいたるまで、共同作業による独自の演劇活動を行うというスタイルは近隣に類がなく、地方の文化活動に一石を投じてきたものと自負いたしております。

また、取り上げる芝居のテーマは、「山間地農業」「農村環境・景観保全」「過疎」「嫁婿」「高齢化」「嫁不足」「地域おこし」「町村合併」といったどれも3町村をはじめ日本の地方が抱



える深刻な課題を真正面から取り上げ、さらに新たなまちづくりをわかりやすく例示するといった姿勢を頑ななまでに貫いております。

### 2 平成14年度の取り組み

平成14年度は、大島村が掲げる「ほたるの里づくり構想」を題材に取り、スタッフ・キャストそして観客である地域住民とともに、「農村環境の保全」「ほたるを核とした都市との交流とムラづくり」に係る諸問題について考える演劇作品を制作いたしました。出演者・スタッフは総勢約50名。2公演合わせて800名余の観客を、地域はもとより上越市など県内一円から動員し、一地方のメッセージを芝居を通じて情報発信できたと考えております。

### 3 素人芝居大浦安制作委員会からNPO法人素人芝居大浦安へ

素人芝居大浦安の活動は1991（平成3）年、3町村の自治体と地域住民が一体となって実行委員会を組織し始まりました。その後、自ら創作する演劇活動を実行委員会という名称はふさわしくないと考え、制作委員会と改称。

2002（平成14）年12月には制作委員会が母体となりNPO法人素人芝居大浦安を設立しました。従来と同様「芝居づくりは地域づくり」をモットーに、オリジナルの創作演劇を制作する劇団組織を、NPO法人の形で組織化し、演劇活動などのパフォーマンス活動を通して、中山間地農業問題、農村環境保全、地域の文化創造、その他地域づくり全般に貢献することを目指します。

NPO法人後、特に力を入れたい事業は、田舎体験修学旅行生向け

の小規模公演プログラム制作及び公演です。

東頸城郡内の6町村が現在実施している「越後田舎体験事業」で、おもに都市部からやってくる小中高生向けに、大浦安の特性を活かした農村環境・体験学習のソフトとして、オリジナル演劇を制作・上演します。1公演30分程度。もちろん希望に応じて3町村等の住民向けに公演も行います。これにより、田植えや稲刈り体験だけでなく、演劇という新たなジャンルを活用した新たな地域交流の展開を行い、農村環境保全と中山間地における農業の多面的機能を地域住民のみならず多くの都市部の皆さんに、芝居を通じてダイレクトに訴えとともに、かつ地元の参加者が演技や芸芸などの特技を活かし、地域振興に直接的に貢献することが可能となります。

### 4 演劇のもつ力

演劇は、参加者だけでなく観客である地域住民に希望と活力を与える活動であり、地域づくりの原動力ともなり得るものだと思います。

これからも「芝居づくりは地域づくり」を合言葉に、山間地において、3町村合同という広域的で、かつ地域住民が外部の力に頼らず、自ら地域課題を題材とした方言たっぷりのオリジナルの創作演劇を続けていきたいものです。

